

SHIRO

# PAPER



4 582757 638928

Issue  
December  
2024

# 4

2 HELLO NEW ME  
“新しいわたし”に忍ばせた  
未来と希望の気配

10 REGENERATION  
森の再生、関係性の再生  
「みんなの森」





## 2024年、 SHIROのホリデーテーマ “HELLO NEW ME”の中に 忍ばせた、未来の気配

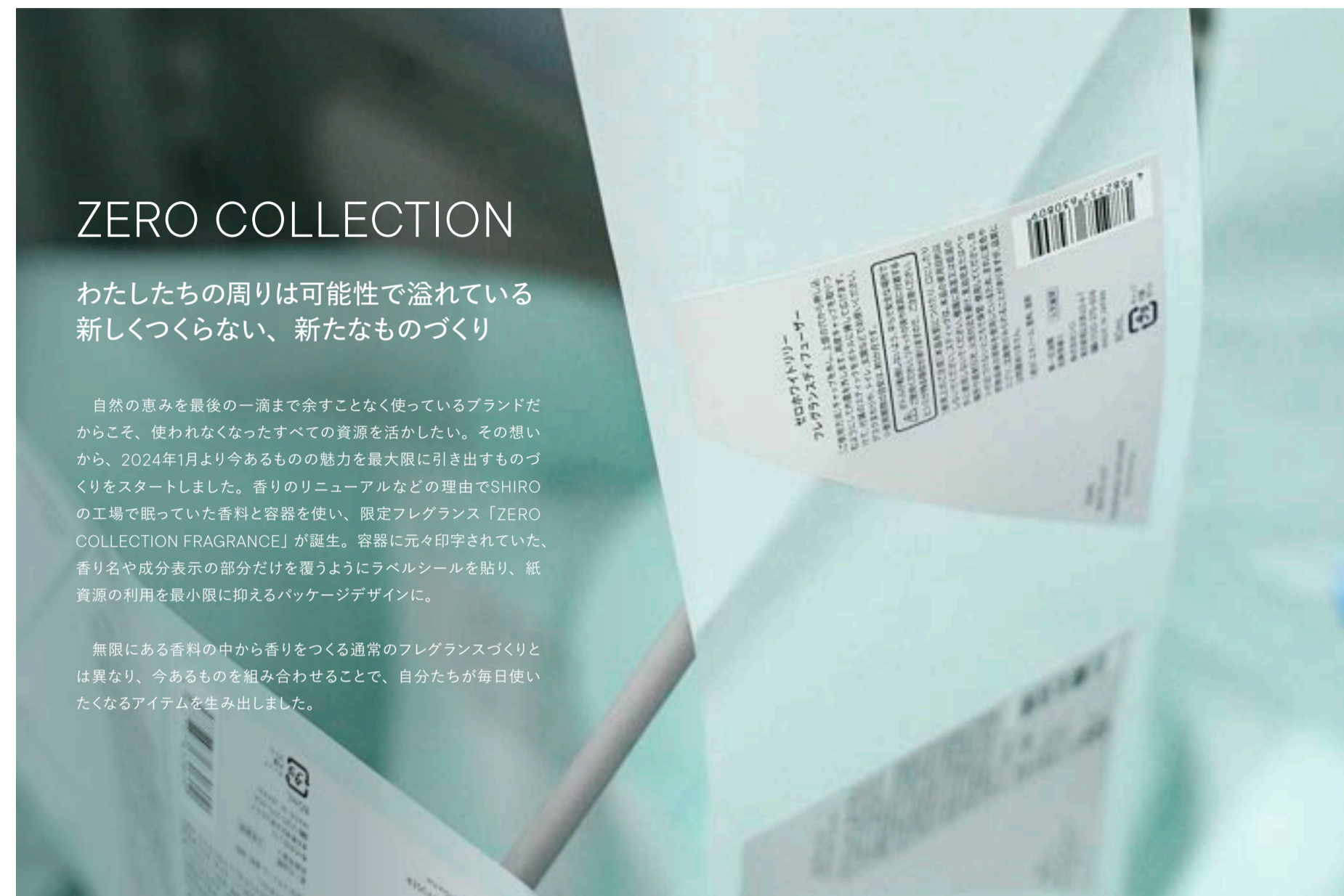
大切な人へ。頑張った自分へ。  
1年の終わりのホリデーに、  
SHIROが目指す未来を  
アドベントカレンダーに忍ばせました。  
価値ある素材や資材を活かし、  
森のエッセンスを散りばめ、  
ものづくりを行うブランドとしての  
プライドを込めています。

Photographs: KEITA SAWA, SOPHIE ISOGAI & FRANCISCA DERQUI, KENGO SONE  
Text: SHINTARO KUZUHARA

### SHIROらしいホリデーの在り方

SHIROが続けてきた自然に根ざしたものづくり、コロナ禍以降の森との出会い、北欧やイタリアへの旅。さまざまな人と出会って話し、目の前で起きていることをよく観察し、考える。今、どうしても感じてしまうのは、いろいろなことが「行き過ぎているんじゃないか」という違和感です。売り買いの仕組みはたくさんありますが、捨てる量を抑えることや、リユースする仕組みは整っていません。その結果、消費しきれない数の製品をつくり、売るためにコストを費やし、どれだけ販売しても余ってしまう量をつくっている。最後にはどうしても捨てられてしまう。販売期間が限定されている「ホリデー」が、その一端を担っていることは否定できません。

SHIROがホリデーにどんな製品を出すのか、お客様は毎年楽しみにしてくださっていると思います。その一方で、ホリデーの在り方がこれまでと同じで良いとも思えません。SHIROのホリデーはあるべき姿に向かい、変わり続けます。もちろん、あくまでもSHIROらしく、美しい在り方のままで。つくりすぎること、捨てることもなく、みんなが参加できる。人々の行動が自然と変わり、未来を変えていけるようなホリデーを。未来への気配は今年のホリデーに忍ばせてあります。来年はさらに新しいホリデーをお届けできるように、すでに準備も始めています。



## ZERO COLLECTION

わたしたちの周りは可能性で溢れている  
新しくつくりたい、新たなものづくり

自然の恵みを最後の一滴まで余すことなく使っているブランドだからこそ、使われなくなったすべての資源を活かしたい。その思いから、2024年1月より今あるものの魅力を最大限に引き出すものづくりをスタートしました。香りのリニューアルなどの理由でSHIROの工場で眠っていた香料と容器を使い、限定フレグランス「ZERO COLLECTION FRAGRANCE」が誕生。容器に元々印字されていた、香り名や成分表示の部分だけを覆うようにラベルシールを貼り、紙資源の利用を最小限に抑えるパッケージデザインに。

無限にある香料の中から香りをつくる通常のフレグランスづくりとは異なり、今あるものを組み合わせることで、自分たちが毎日使いたくなるアイテムを生み出しました。

Advent Calendar 2024

### ZERO FAVOURITE FIG EAU DE PARFUM

ゼロフェイヴァリットフィグ オードパルファン

深みある甘さにみずみずしい果実をプラス  
今年のホリデーだけの「ZERO COLLECTION」

2024年のアドベントカレンダー限定でつくったのは、この冬にまあってほしい香り。深みある甘さの「パルジエンヌ フェイヴァリット」に、過去の限定パフューム「フェイヴァリットドレス」、そしてみずみずしい「フィグ」などを組み合わせたフレグランス。香りを詰め込んだガラス容器は、メーカーが保管していた軽微不良のものにラベルを巻いています。



1 Sun

Advent Calendar 2024

### ZERO FAVOURITE FIG OIL IN BODY SCRUB

ゼロフェイヴァリットフィグ  
オイルインボディスラブ

チェリーやフィグなどの果実と花々が香る  
甘くロマンチックな贅沢ボディケア

深みある甘さと、果実のみずみずしさを感じるゼロフェイヴァリットフィグの香りを存分に楽しめる製品って何だろう？と考えて生まれたボディケアアイテム。冬の肌を想い、角質ケアをしながら流した後もしっとり保湿してくれる、眠りにつくまでの時間もほのかに香るアイテムに仕上げました。ラベルには香りをイメージしたカラーを採用しています。



7 Sat

## MAISON SHIRO

### SHIROの暮らしがここにある 森の都合で建てた家

北海道長沼町に建てた一棟貸しの宿MAISON SHIRO。SHIROの製品が誕生するきっかけは、畑や海を訪れ、素材に触れて、香りを嗅ぎ、口にして、生産者である農家や漁師と出会って彼らの想いを聞くことから。そんなものづくりと同じようにMAISON SHIROも、木こりの案内で森を歩き、森の未来を考えて間伐される木々の中から柱や壁に使う材を選び、どこへ使うか決めていきました。規格外の野菜が不恰好でも栄養があって美味しく食べられるように、木材に節や割れがあっても、石材の大きさや色が異なっても立派に機能する。そしてそんな材こそ唯一無二の個性と美しさがあるのです。

宿泊棟の隣には、近隣で採れたり、生産者から届いたりする自然素材を蒸留する「シロラボトリー」があります。フレッシュな枝葉や、森に自生する素材を蒸留し、製品に使用。暮らしながら、SHIROのものづくりの気配を感じていただけます。

Advent Calendar 2024

### SPICE OF LIFE SHAMPOO & CONDITIONER

スパイス オブライフ  
シャンプー & コンディショナー

髪も心も満たされる、自然素材と香りが主役の  
SHIROならではのヘアケア製品

アドベントカレンダーでは、MAISON SHIROのアメニティをミニサイズでご用意。パフュームシリーズの豊かな香りを満喫できる製品をつくる中で、素材の恵みを使って保湿効果を加えたいと考えました。そして、水の代わりにシロラボトリーで蒸留した白樺蒸留水を含わせることで、「スパイス オブライフ」の香りを引き立て、泡立ち良くしっかり保湿してくれるシャンプーと、アロエとシアバターとともに濃密な潤いを閉じ込めるコンディショナーが誕生しました。



11 Wed, 12 Thu

Advent Calendar 2024

### Guasha

カッサ

森の未来を考えて伐った木々を余すことなく使う

建築に使った木々の端材たちは、ものづくりやお店づくりなどさまざまな場面で活かすことができるかもしれないと考え、処分することなく大切に保管していました。自分たちが本当に欲しいもの考えたときに、1年間の疲れを癒やし明日も頑張れるよう、セルフマッサージをするカッサをつくろうと思いました。ローレルの頃から一緒にお店づくりをしている、砂川の三共建具工業の水島さんが、一つひとつ手作業で、間伐したトドマツのぬくもりを感じられるように仕上げてくださいました。



15 Sun

## SHIRO REUSE PROJECT

### リサイクルからリユースが 日常になるために

日常生活を過ごす中、一人でも多くの方が、リサイクルからリユースへ自身のアクションを切り替えれば、地球にかかる環境負荷のエネルギーは格段に減ります。環境負荷が減れば、毎日はずっと過ごしやすくなり、動植物の命も紡がれていくはず。SHIROはこの先の未来もずっと、地球上の命が絶えず誕生し続ける世界を望んでいます。そのために今、私たちができること。

多くの素材を使ったプロダクトは、単一素材でつくられた場合と比べ、リサイクルしづらいという現実があります。しかしすでに世の中は、多素材プロダクトで溢れています。ですから「リサイクル」ではなく、プロダクトの形をそのまま使う「リユース」へとシフトすることが重要です。また、単一素材でつくられているガラスはリユースのハードルも比較的安く、環境負荷を抑える容器として注目。SHIROはこれまで何度も容器をリユースできないかとチャレンジしてきましたが、多くの壁があり、なかなか実現できませんでした。しかし、高度な洗びん技術を持つ老舗企業とのタッグにより使用済みのガラス容器を洗浄し、香りと油分を取り除くことに成功。じゃあ、SHIROの使用済みガラス容器だけを集めればいいの？ 答えはノーでした。



### 「SHIRO with PASSTO」が 伝えたい未来

ECOMMITはPASSTOという資源循環サービスで衣類回収の取り組みをされています。その活動を知り、廃棄される衣類を1枚でも減らし、リユースさせることが未来の地球のために重要なアクションだと考え、ガラス容器と一緒に衣類も回収してきました。2024年11月、渋谷PARCOで行ったPOP UP STORE「SHIRO with PASSTO」では、回収した容器を再使用してつくられた「ZERO COLLECTION」より、ゼロホワイトフィグとゼロムスクサボンの2種の香りを販売しました。また、回収した衣類の中から、「この服が着たい」と思っていた魅力的なリユースの衣類をセレクト。プロダクトの新しい価値や魅力を創造するPOP UP STOREでは、SHIROのお客様はもちろん、今までSHIROと出会うことがなかった方々にもお買い求めいただけました。

SHIROのすべての店舗では引き続き容器の回収を行います。使い終わったSHIROのガラス容器がございましたら、ぜひ店頭へお持ちください。



## 捨てないお店づくり

### 極力バーゲン材を使わず すべての価値を見つめ直すお店づくり

スクラップアンドビルドを繰り返す建築が当たり前になりつつある今だからこそ、新しくオープンするお店もリニューアルするお店も、今ある資源の価値を見つめ直しながら再構築しています。例えば、既存什器の表層替えのみを施してそのまま使用したり、販売できない製品容器を砕いて左官材に混ぜたり、不要になった什器は別店舗の什器として再活用するなど。生まれ変わったお店へ来てくださるお客様に、もっとワクワクして欲しいという想いでデザインしてきました。

そして、SHIROにとっては当たり前であるこのお店づくりに、ルミネエスト新宿店のリニューアル時にはお客様にご参加いただきました。既存の床をペイントするという施工の一部を開き、一緒にワークショップを行ったのです。この新たな挑戦が参加して下さった方々の心に残り、何かの気づきになることを願って。

## 15年目の宣言

ブランド誕生から15周年を迎えた2024年。私たちは「本質的な循環のために廃棄物ゼロを目指す」という「15年目の宣言」を表明しました。製品がつくり手から買い手へと渡り、使用後は廃棄されるという流れを変えるための起点となるようフォーカスしてきたのは、ものづくりとお店づくりの2つです。

- ・限りある素材や資材を余すことなく使い、資源を大切に「ものづくり」
- ・極力バーゲン材を使わず、価値ある端材や廃材を活かす「お店づくり」

そして今年のSHIROは、ものづくりやお店づくりの枠を超え、学びの場をつくらせたり、ファッションショーを行ったり、ともに歩む仲間がたくさん増えました。みんなの工場を設計してくれた建築家・アライイリエアキテックス。彼らの提案書には「工場を開く」というキーワードが書かれていました。そのアイデアをどのように実現するかを考え抜いたら、工場とショップを隔てる壁がガラスになりました。MAISON SHIRO

で取り組んだ端材まで使い切る木の使い方も、できるだけ廃棄しないお店づくりも、現在実験を進めているガラス容器の回収・洗浄・再使用する仕組みも、全て開いていくつもりです。



### 工場を開く

工場の一部ではなく、製造ライン全体を見学できるようにする。裏のない製造工程へのSHIROの意思と誇りを、建築の在り方で示す。それは、工場+付帯施設という構図ではなく、工場自体を開くということ。ものづくりのプロセスを開放することで、その場を一企業の製造所から、地域の学びの場へ変容させます。

## 15年後の姿、100年後の未来

15年後の世界を想像してみましょう。廃棄物ゼロは当たり前になり、「ゴミ箱」がなくなっているかもしれません。あらゆるものは「資源箱」に分けられ、野菜を育てる肥料になったり、新しい製品のパッケージになったり、次の役割が待っているのです。そのとき店舗は販売拠点にとどまらず、さまざまな資源を循環させる中心地として役目を果たすでしょう。SHIROはコスメティックブランドの枠を超え、さまざまな領域にまたがり、社会の循環を促す存在になっているかもしれません。

もし「20年目の宣言」、「30年目の宣言」をするなら、どんな内容になるのでしょうか？例えば、「再生」をテーマにしているかもしれません。SHIROのものづくりと森づくりがより深く繋がり、SHIROの製品をつくればつくるだけ森が育っていく。そのころには、今よりもっと多くの仲間がいて、森だけでなく、海や川、街などさまざまな再生をサポートしていけたら素敵ですね。

とはいえ、そんなポジティブな未来が来るかどうかは誰にもわかりません。生産者の声を聞けば、気候変動の影響で作物の収穫量が減ったり、品質が悪くなったりするという話も耳にします。夏の暑さが過酷になっている実感も、多くの人が抱いているでしょう。100年後を生きる世代にどんなバトンを渡せるのか、皆さんと一緒に考えていけたら嬉しいです。

# SHIRO NEWS



### さまざまなプロセスを開く ポッドキャストがスタート

毎週日曜日に配信している「TABI SHIRO」に続き、社会課題をビジネスで解決するドキュメンタリー番組「あいだのハナシ」の配信がスタート。北海道砂川市の砂川パークホテルのリニューアルプロジェクトを題材に、さまざまな社会課題に向き合うプロセス、“あいだ”を現在進行形でお伝えしていきます。理想と現実、都市と地方、民間と行政など、さまざまな“あいだ”をキーワードに、悩みながら模索する過程もすべて開いてお届けしますので、聴いてみてください。



### 個性あふれる6種の香り 手肌をケアする美容液

世界各国のパフューマーの記憶から生まれたストーリーが、ドラマティックに香るSHIRO PERFUME。その香りを日常生活でもっと気軽に楽しんでほしいという想いから、定番製品「ハンド美容液」が登場しました。リッチな潤いと美しい香り立ちの両立を目指して試作を重ね、保湿アイテムながら、練り香水のような感覚でお使いいただけます。FREESIA MISTをはじめとする全6種の香りを満喫できるハンド美容液はご自身用にはもちろん、気持ちを伝えるギフトにもおすすめです。



### 森林がつくりだす フレグランスポプリ

「フレグランスポプリ」が今年の冬も数量限定で登場します。SHIROが森で出会った素材は、森林が生み出す澄んだ空気、木々の間から差し込む木漏れ日、美しい落ち葉の色彩、枯葉を踏みしめる音など——人の手だけではつくり出せない、自然が生み出した美しさでした。拾い集めた落ち葉や木の実に、香りをまとわせたらフレグランスポプリの完成。自然の恵みをいただきながら、今あるものを使い、香りも見た目も楽しめる森からの贈り物をお届けします。



### 自然の恵みに包まれて 香りの余韻にひたる幸せ

SHIROの暮らしを体感できる一棟貸しの宿 MAISON SHIROで、アメニティとしてご用意している「SPICE OF LIFE シャンプー」、「SPICE OF LIFE コンディショナー」、「FREESIA MIST ボディソープ」、「SPICE OF LIFE クレイハンドソープ」が定番製品として登場。泡立てたり、髪につけたりする瞬間、バスルームいっぱいにSHIRO PERFUMEの豊かな香りが広がり、幸せな気分を満たされます。毎日のルーティンをより豊かにするアイテムたちを手にとってみてください。



### 2025年春オープン予定 薪火レストラン（仮称）

みんなの工場の敷地内に、食と空間の感動体験を創造するレストランをオープンします。円錐形の屋根がシンボリックなレストランは、薪火でつくった同じ料理を食べ、共に時間を過ごし、新しい“えん”が紡ぎ出される空間を目指します。建物には木こりと山に入り選んだ道産材を用い、料理には工場の畑で育てた野菜や、道内産の食材を使います。そして今年の冬、工場ではものづくりワークショップやかまくらづくりなどを予定していますので、ぜひお越しください。



### プライベート空間で行う パーソナルカウンセリング

SHIROの店舗にて、アドバイザーが直接お話を伺いながら、お客様一人ひとりに寄り添うパーソナルカウンセリングを行っています。「店内の混雑状況を気にせず、ゆっくり製品を選びたい」、「初めてSHIROを使うので、時間をかけながら製品について詳しく知りたい」、「特別な空間で落ち着いて個別カウンセリングを受けたい」という方におすすめです。現在、表参道本店にて最大90分間で受け付けており、公式オンラインストアからご予約いただけます。





## 自ら再生する力を支え、見守る SHIROがはじめる「みんなの森」

その場所を壊さなければ、SHIROは生まれなかった——。私たちと切っても切り離せない森が、北海道砂川市にあります。一度は壊してしまった森は今、自らの力で再生しようとしている。これからはじめる「みんなの森」誕生のストーリーをお届けします。

Photographs: SHIN SASAKI | Text: SHINTARO KUZUHARA



枯れた草木の合間を縫い、新しい命が芽吹いている。

## ただいま準備中 20年間手つかずだった「みんなの森」

札幌でこの冬初めて積雪が観測された11月上旬のある寒い日、SHIRO PAPER編集部は、取材のために車を走らせました。鮮やかな赤や黄色に紅葉した森には白い雪が降り積もり、昨日までとは全く異なる景色が広がります。これだけ広大な風景を一夜にして変えるのが自然の力。人間には不可能です。秋から冬へと移り変わるこの時期だけの自然の美しさを堪能しながら向かったのは、北海道砂川市の山間エリア。

高速道路を降り、収穫を終えた畑の間を駆け抜けると、突然視界が開けました。谷のように凹んだ大地に若い白樺が立ち並び、新しい森が育っています。池や湿地もあり、鹿の角や小動物の食べ残しなど動物が棲んでいる痕跡も見つけることができました。ここは、SHIROが新しく始める「みんなの森」となる予定の場所です。鳥や動物、植物を観察する小屋、採取した植物の加工場、見晴らし台などを整備し、自然に根ざした農業や生き方を伝える開かれた森にするため、準備を進めています。



雪が舞う中、室松玲子さんにお話を伺う。

## SHIROの前身ローレルを支えた場所

この森を眺めながらお話を伺ったのは、SHIROの前身であるローレル創業者の故・室松敏雄さんの妻で、ローレル時代に今井と一緒に働いていた室松玲子さんです。

「この土地は、ローレル時代に室松敏雄さんが購入したもので、約20年間、手をつけられずにいました。この場所では8年間、山から土を削り取り、他の場所へ運び出し続けていたのです。今でも残る斜面の痛々しい景色は、その痕跡です」

当時ローレルはハーブや石けんだけでなく、ラベンダーのボディソープやバスソルトなど北海道のお土産も製造していました。北海道土産といっても生産地が他県だったり、製造元が北海道の会社ではないことが珍しくなかった時代に、ローレルは北海道の素材にこだわり、砂川で製造していました。しかし、赤字経営が続き、会社の経営を支えるために当時社長であった室松敏雄さんは奔走していました。その一つが砂利の採掘販売です。ローレルが所有または借用している土地から砂利を掘り、その埋め戻しのために土を掘っていた場所が、「みんなの森」の予定地なのです。この土地の生態系を壊したのはローレルです。しかし、そうしなければローレルは倒産するかもしれない。そうならばSHIROも誕生していなかったのです。

その後、入浴剤やスキンケア製品のOEM事業が軌道に乗り始め、砂利採掘は終了。室松さんは社長の座を今井に譲りローレルを退き、土地を会社から引き継ぎました。

## 20年前と今をつないだ ある出来事

就職説明会で出会った室松敏雄さんの人柄に惹かれて新卒で入社し、室松さんから何を大切に働くかを学び、二人で飛び込み営業をしながら販路を開拓してきた今井。その信頼関係があったからこそ室松さんは、当時26歳だった若い今井にローレルを託したのでしょう。今、今井が自然素材にこだわり、生産者に近いところで製品をつくっているのも室松さんの影響です。

一緒に働いていた時期は、尊重し合い、大きなチャレンジを続けていた二人ですが、室松さんが会社を離れて以降は絶縁状態になってしまいました。shiroからSHIROへとブランドが発展するに従い、室松さんの気持ちはほぐれていきましたが、再び話し合うことがないまま室松さんは癌で亡くなってしまいます。それは、砂川にみんなの工場がオープンしてしばらくしたあとのことでした。そんなある日、森に通い始めた今井に、玲子さんから連絡があったのです。

「実は、20年間手つかずの森があるんです。もし今井さんが森に興味を持っているなら、紹介したい。一度は壊れてしまった生態系が、手つかずの間に戻ってきているんです」

室松さんが土地を所有し、砂利の採掘事業をしていたことなどすっかり忘れていた今井。このお誘いで、初めて土地を見に行きます。



秋に現地調査しに行った際には、一面がススキに覆われていた。

「驚きました。ここには可能性しかない。土地を変形させるほど自然に手を加えてしまった事実は本当に痛ましいことだけど、この土地がなければSHIROは生まれなかったのも事実。だからこそ、この場所を森として開き、自然との共生を伝える場にしたいと思いました。現状では美しい森とは言えません。でも、自然に森に戻ろうとする力を感じます。その力を支えたい。50年後にはきっと豊かな森に育つはず」

いろいろな森を見た今井ですが、破壊されたあと自然の力で再生中の森が身近にあったことを知り、ここをSHIROとして引き継ぐことを決めました。

さらに、玲子さんと数十年ぶりに話す中で、室松さんが生前に語っていた夢を思い出します。ヨーロッパを訪れて体験した“ハーブが身近にある生活”を日本に定着させようとし、東南アジアからの研修生へ自然に根ざした有機農法を伝え自立を支援。また、室松さんはローレルを辞めた後、玲子さんとオーストラリアで数年間生活し、「自然に関わる仕事がしたい」という想いを強めて帰国したそうです。「みんなの森」となる予定のこの土地で農業を始めようとしていました。彼が残してくれた山と森から、新しい物語が始まろうとしています。

ジョン・ダン  
『危篤時の祈り』より

人は誰もが孤立した島ではなく、  
それ自体で完結した存在ではない。  
すべての人は大陸の一部であり、  
全体の一部である。  
もし土壌が海に流されれば、  
ヨーロッパはそれだけ小さくなる。  
それは岬が失われたのと同様に、  
あなたの友人の土地が、  
あるいはあなた自身の土地が失われたのと同じだ。  
誰かの死は私の一部を失った気にさせる。  
なぜなら、私は人類の一員だからである。  
それゆえ問うなかれ。  
誰のために鐘は鳴っているのか、と。  
それは、あなた自身のために鳴っているのだから。

No man is an island,  
Entire of itself;  
Every man is a piece of the continent,  
A part of the main.

If a clod be washed away by the sea,  
Europe is the less,  
As well as if a promontory were:  
As well as if a manor of thy friend's  
Or of thine own were.

Any man's death diminishes me,  
Because I am involved in mankind.  
And therefore never send to know for whom the bell tolls;  
It tolls for thee.

John Donne  
Devotions upon Emergent Occasions

## 手つかずの森の大先輩 北海道の原生林へ

降りやまない雪の中、編集部はさらに北へ向かいます。目的地は北海道大学が管理する「雨龍研究林」です。ここには、人の手が入った形跡のない「原生林」が広がります。私たちが目にする多くの森は、人工的に植樹された単一の樹種がまっすぐに並んで生え、美しく見えるのですが、北海道の生態系としては不自然です。一方、自然が生んだ森は、針葉樹と広葉樹が混在し多様な生態系が保たれます。「みんなの森」の予定地は、まだ短い期間ではありますが、人が手を入れず自然発生的に森が育ち始めています。現状では荒れ地に見えるかもしれませんが、若い森の誕生なのです。自然の意思に任せたら、どんな森ができるのかを学ぶため、雨龍研究林を訪れました。

この森を管理する北海道大学の小林真博士を先頭に、原生林の中を歩きます。足元の土は耕したばかりの畑のようにフカフカです。寒さの厳しい北方の森では、土の中の微生物が少なく、落ち葉などが分解されすぎることなく積み重なっていきます。こうしたフカフカの土は、木よりも多くの炭素（二酸化炭素の材料になってしまうもの）を蓄えているそうです。そんな話をしながら、ある場所で小林さんが立ち止まりました。

「この倒れた木を見てください。何本も木の赤ちゃんが生えていますね。これは『倒木更新』という現象です。北方の森では、雪に覆われてしまう土の上よりも倒木のほうが木を育てるのに適しているのです。この森ではなんと9割の木が倒木更新によって育っています。つまりこの森は、枯れていく木があって初めて新しい木が生まれるんです」



柔らかい土の上をどンドン歩く。見学しやすいように北大の職員の方が整備してくれている。

倒れた木から育つ、新しい木。この中のいくつかが育ち、数十年後には大きな木になっているはず。





#### 雨龍研究林 Uryu Experimental Forest

1901年に創設された、北海道大学研究林の中でも最も歴史の長い研究林。総面積は約2万ヘクタール。寒暖差の激しい多雪地で、夏期は30℃を超えるが、冬期は-35℃にもなり、最大積雪深は200cmを超える。森林科学、生態学、環境科学などさまざまな学術研究や学生実習の場として利用されている。

森林管理の現場では、倒木は片付けられるのが通常です。倒れていると重機が通るのを妨げてしまうからです。しかし、倒木も森の生態系の一部なのです。森に入るとついつい高くそびえ立つ木につられて空を見上げてしまいますが、足元でも、さらには、土の中でもさまざまなことが関わり合って、森ができています。それがよくわかる場所として、小林さんは大きな常緑針葉樹の根元に案内してくれました。

常緑針葉樹とは、1年を通して葉を落とさない針葉樹のこと。クリスマスツリーとして使われるモミの木もその一つです。細長くて硬い針のような形をした葉は、蒸発する水分を抑える役割があり、厳しい寒さに加えて乾燥している環境でも生きていくことができます。

多くの北海道の森は、笹が地面をくまなく覆い日光を遮ってしまうので、背の低い植物や幼木は成長できません。しかし、1年を通じて葉が落ちない常緑針葉樹の下では、限られた太陽光しか届かないため明るい場所を好む笹が生えないのです。太陽光の影響を受けないということは、温度や湿度が変化しづらいということでもあります。その安定した環境を好むさまざまな種類の植物が集まります。つまり、常緑針葉樹は森の多様性を守っているのです。

「この森だけでなく、世界中で常緑針葉樹が減少しています。多くの研究者が原因を探っていますが、私の調査では気温上昇の影響で夏がより乾燥し、常緑針葉樹が枯れやすくなっている様子が見られます」

雨龍研究林は北緯44度、北欧やロシア、カナダなどの北方に広がる森の中では最も南に位置します。つまり、地球温暖化による北方の森の変化が最も早く現れる地域です。世界に広がる北方の森の未来が、この先どうなるかを先んじて示してくれる森でもあります。



すべて同じように見える針葉樹の葉だが、樹種によって形が異なる。森には多様な植物が生きている。

## 誰もが孤立した島ではなく 全体の一部である

森の中ではすべてが関係し合っており、少しでもバランスが崩れると大きな影響が出てしまいます。北海道に広がる豊かな原生林でも、バランスが崩れている様子を知り、事の深刻さを実感した編集部。しかし、悪い発見ばかりではありませんでした。小林さんは最後に、森の中でも白樺がたくさん立ち並ぶエリアに案内してくれました。

「白樺の種はとても軽く、遠くまで飛んでさまざまな場所で芽吹きます。さらに白樺は成長も早いです。山火事が起きたり、木を根こそぎ伐採してしまったような場所にいち早く生えて、森をつくっていきます。北方では、森の始まりは白樺がつくるんです」

ここで思い出してほしいのは、「みんなの森」の予定地の景色です。白樺がたくさん生えていましたよね。白樺から森が始まり、葉が落ちて土を豊かにし、枯れて倒れて、そこから新しい木が生まれる。こうして、さまざまな要素が関係し合い、森が育っていくのです。

前のページの詩は、17世紀のイギリスの詩人ジョン・ダンの作品の一部です。ここに登場する「鐘」は、地域の誰かが亡くなったことを知らせるために教会が鳴らしていたものです。「人は孤立した存在ではなく、関係し合っている。だから、誰か一人の喪失は、自分自身を含む全体に影響を及ぼす」ということを、この詩を通じて表現しました。

人も自然も、それぞれが関係し合っています。誰かの死から始まることもあれば、どこかの木が枯れて倒れることから始まることもあります。新しく始まる「みんなの森」でどんな関係が生まれていくのか、SHIROのお客様に広くお知らせできる日が楽しみでなりません。



北方の木といえば、この白樺を思い浮かべる人も多いのでは。その美しい姿から、多くの芸術作品や文学のモチーフとなっている。



2024年11月、改装中のルミネエスト新宿店で開催した「床ペイントワークショップ」。子どもも大人もみんなで、自由に、楽しく、色を重ねていきました。ご参加くださった皆様、ありがとうございます。

## SHOP LIST

### 北海道

SHIRO 砂川本店	北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内
SHIRO 札幌ステラブレイス店	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワー 札幌ステラブレイス センター B1

### 関東

SHIRO 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F
SHIRO BEAUTY 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F
SHIRO 自由が丘店	東京都目黒区自由が丘2-9-14 アソルティ1F・B1F
SHIRO ルミネエスト新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1
SHIRO 伊勢丹新宿店	東京都新宿区新宿3-14-1 伊勢丹新宿店本館1階=化粧品
SHIRO 丸ビル店	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル B1F
SHIRO 銀座三越店	東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 地下1階 ギンザコスメワールド
SHIRO +Q (プラスク) ビューティー	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア
渋谷スクランブルスクエア店	ショップ&レストラン6階 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー店
SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs 店	東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F
SHIRO ルミネ池袋店	東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1
SHIRO 玉川高島屋 S・C 店	東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 1F
SHIRO ルミネ北千住店	東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F
SHIRO ルミネ横浜店	神奈川県横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F
SHIRO ルミネ大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都大田区羽田空港 3-4-2 第2ターミナル 3階 国際線出国エリア内

### 中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

### 中国

SHIRO ミナモア広島店*	広島県広島市南区松原町2番37号 ミナモア広島 2F
----------------	----------------------------

### 近畿

SHIRO 大丸京都店	京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町79 大丸京都店 1F
SHIRO ルクア イーレ店	大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F
SHIRO 阪急うめだ店	大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
SHIRO 大丸心斎橋店	大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 大丸心斎橋店本館 1F
SHIRO 大阪タカシマヤ店	大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1階化粧品売場
SHIRO 大丸神戸店	兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

### 九州

SHIRO 岩田屋店	福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館1階=化粧品
SHIRO 博多阪急店	福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F 化粧品

### Taiwan

SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店	台湾台北市信義區松壽路11號1樓
-----------------------	------------------

### London

SHIRO Monmouth Street	Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK
-----------------------	--

※ 2025年3月24日(月)オープン予定

SHIRO  
PAPER

Issue 4

発行：株式会社シロ  
お問い合わせ  
TEL: 0120-275-606  
MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩恵  
Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター：佐々木信 (3KG)  
Creative Director: Shin Sasaki

エディター：葛原信太郎  
Editor: Shintaro Kuzuhara

表紙写真：成尾和見  
Cover Photograph: Masami Naruo

発行人：福永敬弘  
Publisher: Takahiro Fukunaga

プロデューサー：伊藤亜由美 (CREATIVE  
OFFICE CUE)  
Producer: Ayumi Ito

編集企画：野木村美里  
Editorial Planning: Misato Nogimura

PR・校正：小林穂乃香  
Public Relations: Honoka Kobayashi

PR・校正：河合裕子  
Public Relations: Yuko Kawai

PR・撮影：笹木舞子  
Public Relations: Maiko Sasaki

Thanks to:  
小林真 / 坂井助 / 雨龍研究林の皆さん /  
室松玲子 / 多木陽介 / 有井淳生 / 入江可子 /  
日向俊介 / 日向実香 / 日向奏太 / 日向ころ /  
天野志穂 / 北崎千鶴 (敬称略・順不同)

Copyright © SHIRO Co.Ltd.  
All Rights Reserved.  
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、  
ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp  
@shiro\_japan  
@shiro\_sunagawa  
@maisonshiro\_

